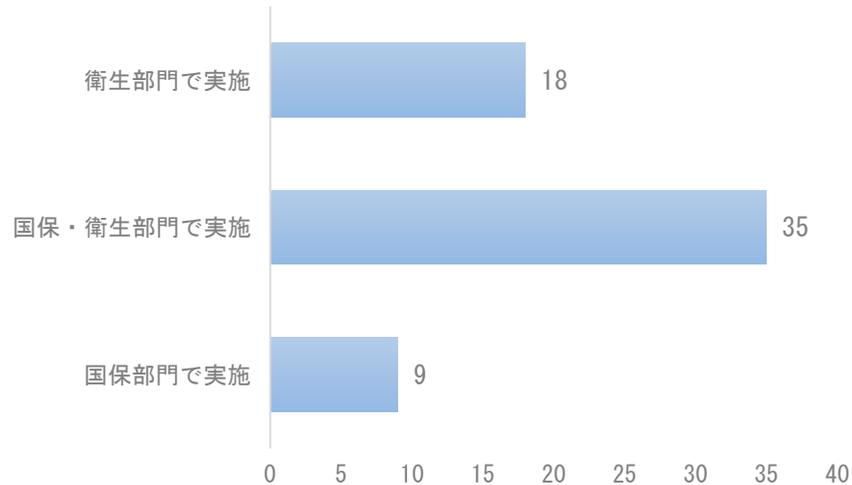


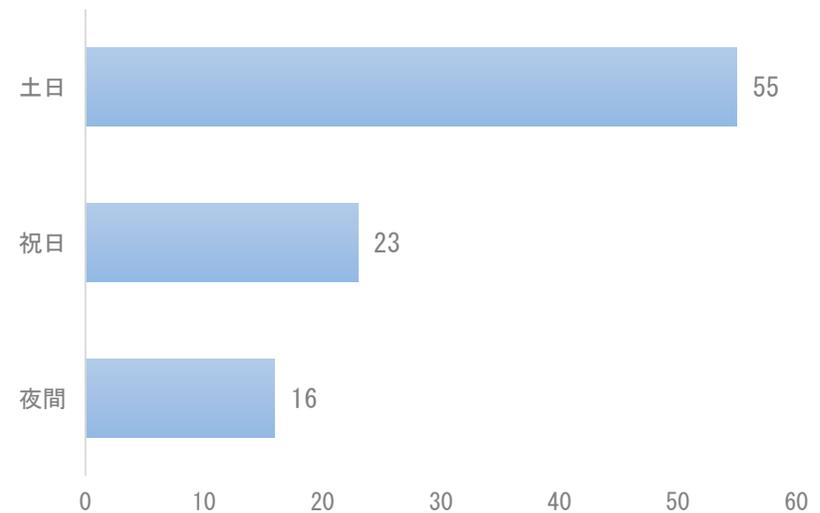
# 国保保険者の保健事業の好事例 ～令和2年度に指導検査等で把握した 区市町村国保の取組～

東京都福祉保健局保健政策部国民健康保険課

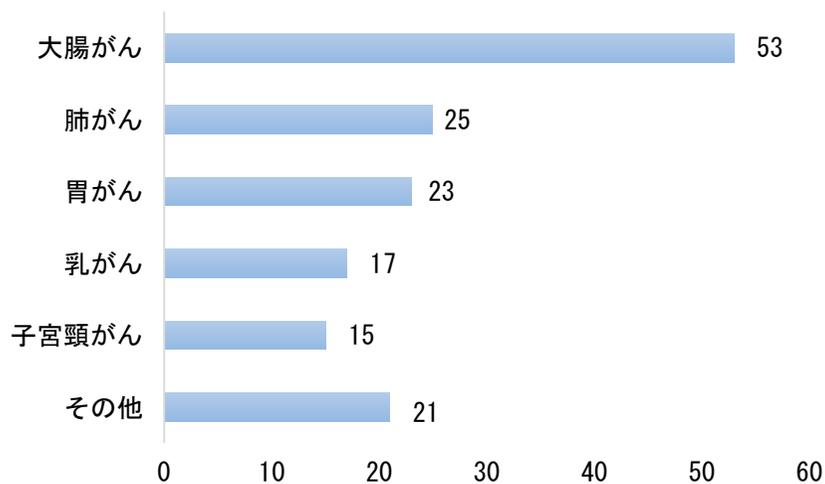
## (1) 実施体制



## (3) 土日・祝日・休日の実施 ※複数回答



## (2) がん検診との同時実施 ※複数回答



## ■ 特定健診の周知・受診勧奨の工夫

### <対象者>

- 受診券送付後、1か月経過した後、全員に受診勧奨のハガキを送付し、その後受診なしの人にはセグメント（年代等）別にハガキ送付
- 小中学校の児童・生徒に保護者向けのチラシを配布（受診率の低い40～50代をターゲットとしている）

### <内容>

- 健診勧奨はがきに二次元コードを掲載して健康診査や人間ドック受診費助成の案内ページへ誘導
- 過去5年分の健診結果をグラフ化した通知を送付
- 対象者の過去の受診状況等によって勧奨内容を工夫（前年度未受診者には健診が短時間であることや費用面を周知、受診者には毎年受診することで生活習慣病リスクが低減することを周知）
- 受診勧奨通知でアンケートを実施し、翌年度以降、認知度が低い内容の周知強化

### <方法>

- 健診勧奨通知を「圧着はがき」（開封意欲を喚起）にして、新規対象者や継続未受診者等に対して送付
- 区HP・広報誌などのほか、医療機関やスポーツジム、町内会掲示板等にも掲示
- 若年層の受診率向上のため、SNSによる周知
- ケーブルテレビCMやSMSの活用

### <その他>

- 商工会議所や企業に対して健康診査結果提出依頼
- 受診勧奨通知に人間ドック等の結果提供依頼文を掲載

## ■ 特定健診の実施方法の工夫

- 未受診者専用、土日の集団健診を実施
- 近隣区の医師会と契約（相互乗り入れ）
- 医療機関に通院している人への健診案内チラシを作成し、医療機関で渡してもらうようにしている

## ■ コロナ禍における特定健診時の感染拡大防止対策

- 三密を防ぐため、健診機関の人数制限、原則予約制
  - 各医療機関に感染拡大防止対策を依頼
- 例：ドアを開ける、消毒をしているという立て看板を出す、アクリル板を置く等の対策
- 受診券送付時にコロナに関するチェックリスト（体調など）を同封
  - 結果返却を対面から原則郵送に変更

## ■ コロナ禍における特定健診実施率向上対策

- HP、SNS、広報誌などで受診勧奨するとともに、実施機関における感染拡大防止対策についても周知
- 厚労省作成のチラシを自治体の施設に配布・掲示
- 感染症重症化リスクの観点からも健診受診・生活習慣予防が重要であることを勧奨通知等に記載
- 実施期間を通常時よりも延長
- 実施時期や方法を変更したことについてHPなどで強調して周知

## ■特定保健指導の周知・実施方法の工夫

### <利用勧奨内容>

- 特定保健指導の案内文を、積極的支援の場合は「生活改善が今すぐ必要」と動機付け支援の場合と比べて切迫感ある文言を記載する等工夫
- 利用券と一緒に、それぞれの対象者の健診結果を踏まえて留意すべき点等を保健師が手書きで記載した手紙を送付

### <利用勧奨方法>

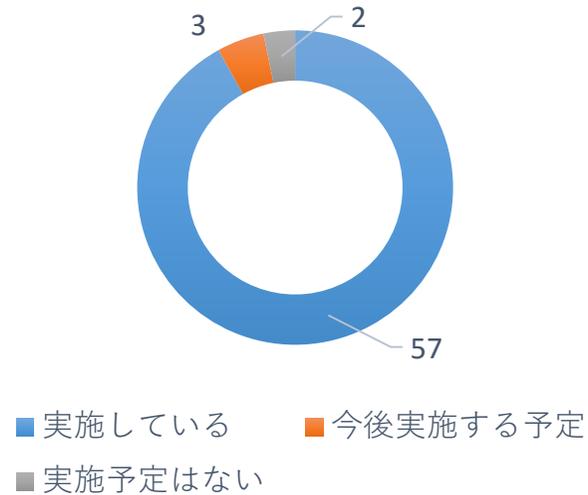
- 受診案内送付後に電話勧奨や未利用者への再勧奨通知を実施
- 医師からの勧奨を実施（健診結果返却時等）

### <保健指導方法>

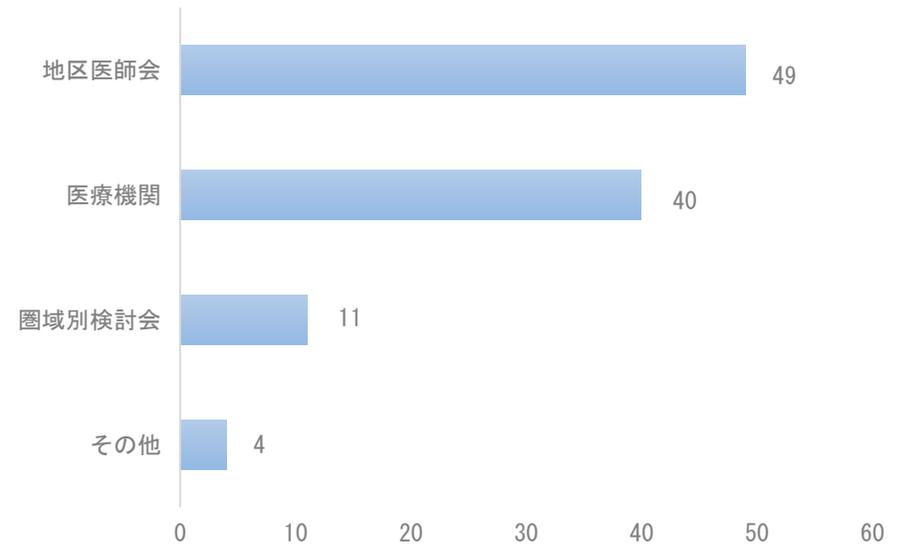
- 健診当日に、特定保健指導の初回面談を実施（健康意識が高まっているうちに実施）
- ICTによるオンライン遠隔面接の実施
- 「特定保健指導」という名称ではなく、より参加しやすい事業名に変更
- 血管年齢等の測定会の場において、対象者に特定保健指導を実施
- 特定保健指導の初回面談と同時に健康増進教室（体操教室等）の実施

※特定健康診査及び特定保健指導については、sucoyacaの東京都事業メニューでも、効果的な保健事業のパターン一覧として事例紹介しています。

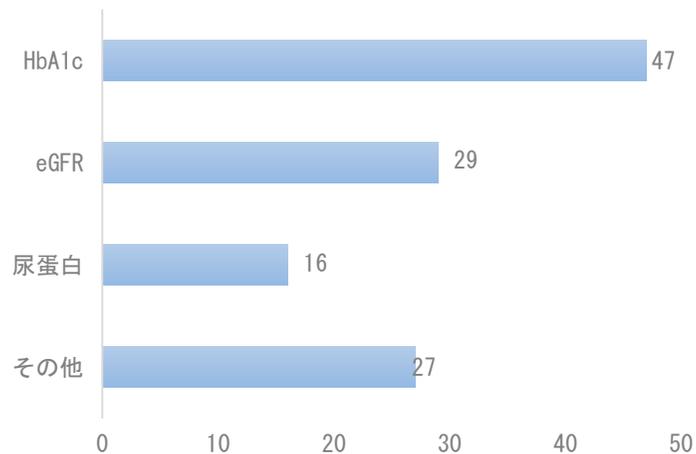
## (1) 取組実施状況



## (3) 外部との連携 ※複数回答



## (2) 保健指導の評価指標 ※複数回答



## ■対象者抽出に当たっての工夫

- 事業該当者を抽出するに当たり、特定健診データのみならず、レセプトデータも活用することで、特定健診未受診者のうち糖尿病の治療を中断している等のハイリスク者の抽出・把握を可能にし、保健指導参加勧奨対象者の人数を増やした。
- 特定健診実施医療機関に予防指導が効果的な者を推薦いただけるよう推薦者名簿を送付している。
- 医療機関と連携の上で、抽出条件を緩和し、対象者数を増やした。

## ■受診勧奨、保健指導の工夫

- 専門職からの電話勧奨。夜間における電話勧奨。かかりつけ医からの勧奨依頼
- 重症度の高い者に、保健師が直接参加勧奨を実施
- 保健指導募集のチラシを工夫
  - ・糖尿病性腎症患者数及び透析者数等のグラフ掲載、透析患者の声の掲載
  - ・参加者の検査値の改善度を提示
  - ・保健指導参加が無料であること 等
- 新型コロナウイルス感染症対策として、対面での保健指導が困難な場合は、WEB面談を導入する等した。
- 看護師による保健指導のほか、かかりつけ薬局での保健指導も実施
- 6か月間（面談3回、電話等支援3回）の基本コースと、面談方法や回数を参加者に希望により選択できる選択コースを設定

## ■その他（ポピュレーションアプローチとの連動）

- 保健相談所で開催している一般住民向けの糖尿病予防講座について、健診結果から抽出した血糖値が高い人に個別通知で案内。
- 特定健診の結果から把握した軽症糖尿病の方へポスターを送付したり、CKD（慢性腎臓病）の方を対象に講演会を実施